

病虫害防除を徹底しましょう！

大豆カメムシ類

影響

莢伸長初期～子実肥大初期の加害

子実が肥大せず、不稔粒やくず粒となり収量低下（被害大）。

子実肥大中期以降の加害

初期と比べると粒の被害は小さいが、品質低下要因。

ホソヘリカメムシ



イチモンジカメムシ



紫斑病

影響

発芽から幼苗期の発病

欠株の発生により収量低下。

開花期後の発病

莢の感染とそれに伴う子実の感染により品質低下。



紫斑病

防除対策

開花期

莢伸長期

子実肥大期

黄葉期

カメムシ・紫斑病
同時防除（1回目）

カメムシ・紫斑病
同時防除（2回目）

幼莢期とその7～10日後に2回薬剤散布を実施。

カメムシ類に対しては、発生状況に応じて追加で防除を実施。

ハスモンヨトウ

影響

開花期～莢伸長期の加害

莢数が減少し収量低下。

莢伸長期～子実肥大期の加害

粒の肥大が抑制されることにより収量低下。



白変葉



終齢幼虫

防除対策

老齢幼虫は薬剤効果が劣るため、白変葉が見られたら防除を実施。

